

企画・審査委員長の講評



企画・審査委員会 委員長
金谷 年展

ご来場のみなさま、そして1,620の応募の中から選ばれた41のファイナリスト団体の方々、残念ながら1団体はこの大雪の影響で棄権になってしまいましたが、2日間にわたりプレゼンテーションで発表をしていただき、今日のこの表彰式までお付き合いいただきまして、誠にありがとうございました。そして受賞団体のみなさま、本当におめでとうございます。

今回は、内容もプレゼンテーションの仕方もレベルがさらに上がっており、今回受賞できなかった方でも、昨年受賞された方と同じくらいのハイレベルに到達しているものですから、もう一つ二つ工夫をこなしていただくと上位賞にも届いたのではないかと多くの団体が多く見られ、受賞団体以外にも「賞をあげたいな」と思うところも非常にたくさんありました。是非来年、再チャレンジしていただけたらと思います。

今回の低炭素杯でも、非常に大きな特徴がいくつか見受けられました。

1つ目は、「複合的に問題を解決していく」という特徴です。多くの取組の中で「低炭素杯」なのだが、低炭素社会に貢献するという以外に、例えば、プレゼンテーションで多くの方の感動を呼び環境大臣賞グランプリを受賞されましたウジエスーパーだとハンディキャッパーの方々などという風に生きていくのかということや、防犯防災の問題や、さらには地域の廃棄物の問題、農業六次産業化の問題、地域のブランド化など、様々な地域や企業、社会がかかえる問題を一石三鳥四鳥で解決していける。そのような取組が多く見られました。その代表として、環境大臣賞グランプリにウジエスーパーが受賞されたのだと思われます。こういった取組は、どんどん増えていくのではないかと考えております。

2つ目は「地域の中に本当に隠れた宝物がある」ということです。特別シンポジウムで井上氏にお話しいただいた「里山資本主義」や、パネリストとして参加された栃木農業高校の小森先生も話しておられましたが「どんな地域でも、1つや2つは最高の隠れた宝があり、それを発掘して新しいイノベーションを起こし、地域の環境と経済を両立させて、地域の成長戦略に資する。」その答えが、今回の発表の中に多くあったのではないかと思います。

挙げればきりがなが、**「パークをどのように処理するのか」という大分県玖珠農業高校の技術もそうですし、里山地域や農業の危機を感じ、その根幹にあるミツバチの問題を的確にポイントをついて、さらにプラスにして地域活性化していこうという岐阜県賀茂農林高校の取組、そのような発表が本当にたくさんありまして、我々審査員としましても、こういった里山資本主義に資する取組は高く評価させていただきました。**

3つ目は、「この取組が普及すれば『低炭素社会』に大きく貢献するだろう。」という特徴です。

ファインモーターズスクールのエコドライブ。もし全国の教習所ですべて実施できれば、ケタ違いにCO2排出削減につながるのではないのでしょうか。

それから、株式会社ゼロテクノの、コンクリートを100年・200年もつようなものに切り替えていく、しかもそれも廃棄物対策とセットにして一緒に一石二鳥でやっていくという取組。また、協栄産業の「ペットボトル」も既に普及フェーズまで来ていますので、イノベーターからさらに社会全般を変えていく、そういった意味で高く評価されました。

こうして受賞をされた方々も、さらに大きく普及していった先に是非またこの低炭素杯に出場いただき、環境大臣賞グランプリを目指していただければと思います。

最後になりますが、低炭素杯も年々レベルが上がっており、参加いただく企業団体の種類やタイプ、年齢層など幅広くなってきました。グローバルという意味で、阿南高専が世界との展開という要素をもった取組でパートナーシップ部門の環境大臣賞金賞をとられましたが、今後も、「低炭素杯」を本当の意味で日本に定着させ、それぞれの取組をしっかりと世界に発信でき、日本と世界の低炭素社会づくりに貢献できるよう、我々も力を尽くしていきたいと思っておりますので、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。